

まえはたひ でこ  
橋本市(紀の川)が生んだ努力の女性「前畑秀子さん」

まえはたひ でこ  
前畑秀子さんの紹介(橋本市名誉市民)

オリンピックで初めて金メダルをとった日本人女性

「前畑ガンバレ!」のNHKラジオ  
中継は、当時の日本人を熱狂させた。



前畑優勝、橋本町の歓喜、相賀八幡神社(胡麻生)。橋本駅前付近も大勢の人々が歓喜の輪、提灯行列も行われた。

その時、約80年前の1936年(昭和11年)第11回ベルリンオリンピックの女子200m平泳ぎでした。



ベルリン優勝、観衆に手を挙げて応える前畑選手「提供: 梶山女学園歴史文化館」

1932年(昭和7年)第10回ロサンゼルスオリンピックでは、わずか0.1秒差で惜しくも銀メダル。それからの4年間、朝・昼・夜と毎日2万メートルを泳ぐ厳しい練習を続けた。

橋本町(現:橋本市橋本)1914年(大正3年)に豆腐屋の長女に生まれ、家の裏の紀の川で泳ぎを覚えた。



飛び込み岩(紀の川)前畑(左)、小島(右)

小学5年生(1925年:大正14年)11歳の時に、学童水泳大会50メートル平泳ぎで(学童女子)日本記録を樹立した。



前畑全国制覇の優勝旗  
「提供: 梶山女学園歴史文化館」

中学3年生(1929年:昭和4年)15歳の時に、名古屋市にある梶山女学園に転校した。

引 退後の翌年 22 歳(1937 年:昭和 12 年)にお医者さんと結婚された。



お医者さん兵藤正彦と結婚

「提供: 椋山女学園歴史文化館」

その後母校で後輩の指導にあたる一方、53 歳(1967 年:昭和 42 年)に名古屋市で日本初の「ママさん水泳教室」を開校した。

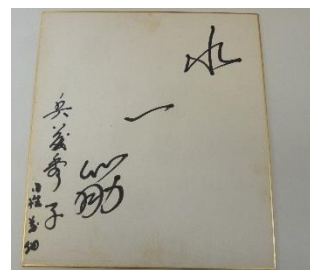
引き続き「子ども水泳教室・幼児水泳教室・シルバー水泳教室」を全国に先駆け開校した。



53 歳(1967 年:昭和 42 年)兵藤さん名古屋市で日本初の「ママさん水泳教室(瑞穂女性水泳教室)」開校

「提供: 椋山女学園歴史文化館」

現役引退後も、水泳教室を開設するなど水泳の普及に尽力し 80 歳まで水泳の発展に捧げた「水一筋」の生涯でした。

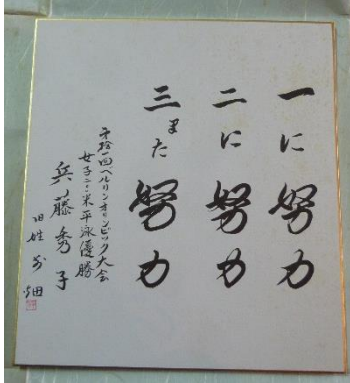


前畑さんの色紙  
「水一筋」

## 前畑秀子さんの名言

言葉の内容	時期	備考
「優勝できなかつたら、帰りの船から飛び込んで死ぬしかない。しかし自分は泳げる。さてどうやって死ぬか」	ベルリンオリンピックに挑む当時を振り返って。	テニス選手:佐藤次郎
「金メダルを頂いて、「君が代」が一節一節、自分の脳に叩きつけているようで、表彰台の上で泣いてしまったんです」	日本女子初の金メダルをとったベルリン五輪を振り返って。	
「やりかけたことは最後まで」 母(ミツエ)の言葉 「秀子や、いったんやりはじめたことは、どんな苦しいことがあっても、最後までやりとげなさい」	2006 年放送、NHK の TV 番組『あの人に会いたい』より。	母(ミツエ)は、秀子が椋山女学園へ転校するときのはなむけの言葉
何事も最後まで成し遂げる精神は、昔も今もまた未来も少しも変わらないと確信しています。	1979 年タイムカプセルから出てきたメッセージ	

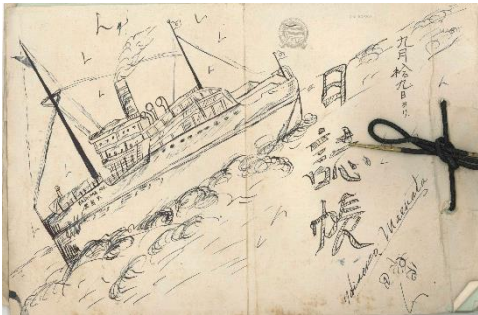
## 前畑秀子ギャラリー



前畑さんの色紙  
「一に努力 二  
に努力 三また努力」



尾張三山(犬山市)参道の石碑



ベルリン優勝前後の日記  
「提供: 椋山女学園歴史文化館」



前畑秀子選手と小島一枝選手  
(椋山女学園ベルリン優勝帰国後)  
「提供: 椋山女学園歴史文化館」



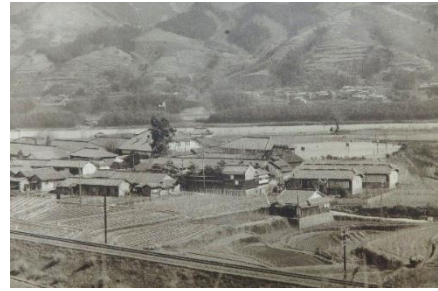
古川勝さん  
(メルボルンオリンピック優勝)



守岡初子選手  
(ロサンゼルスオリンピックとベルリンオリ  
ンピックに出場)



前畑秀子さんがお生まれになった付近  
(古佐田郵便局付近)



前畑さんが15歳まで通った  
橋本尋常高等小学校



前畑秀子の母の碑  
(橋本・古佐田地区墓地)



ベルリン優勝記念時の記念碑  
橋本市民プール(前畑・古川記念プール)



前畑秀子・古川勝モニュメント  
(市役所玄関前)



橋本市郷土資料館  
前畑秀子さんの色んな資料を展示